

校名：千葉大学教育学部附属小学校

所在地：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 電話番号：043-290-2462

記載日：平成28年5月20日

記載者：大木 圭

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

(1) 大正自由教育時代の「自主・自律」の精神の踏襲

本校の前身は明治7年、前身の千葉小学校を改めて千葉師範学校として創立しました。その後、校舎の移転や開設、改称等を経て、大正時代の千葉師範学校附属小学校の頃には、教育の画一性を廃し、子どもの自発性、自主性を最大限に発揮させるという自由教育を提唱し、当時の主事であった手塚岸衛とともに、当時の教育界では「西に奈良、東に千葉」と称されるほど、全国にその名を知らしめた歴史があります。その後、さらに法改正や改称を経て、昭和41年には、千葉大学教育学部附属第一小学校、附属第二小学校が統合され、今年度は統合50周年を迎えますが、「自主、自律」という自由教育の校風は、今なお受け継がれています。

(2) 昭和54年度から始まった総合学習の開発研究

自由教育が全国的に下火になった以降も、本校ではその精神が脈々と受け継がれ、昭和54年度に多湖輝校長を迎えてから、総合学習の開発研究という形で新たな展開が生まれました。「人間の能力は、大人の決めた国語や算数などといった教科の枠で区切られるものではなく、もっと総合的なものである」との観点から、従来の教科指導ではない授業のあり方について試行錯誤が始まったのです。初めは低学年だけで行っていた総合学習が、児童の学年が上がるにつれ、中学年・高学年でも総合学習として成立させ、結果的に児童の学びを見つめながら、教師が6年間の総合学習としてのカリキュラムをつくりあげていった経緯などは、子どもの自発性、自主性を最大限に発揮させようとしていた大正時代に提唱した自由教育と重なります。

(3) 独立行政法人化後に強化される大学との連携研究

総合学習が学習指導要領にも示されるようになると、総合学習にかかわる新たな開発研究を行う気運が高まり、「ものづくり」や「英語」など、いくつかの分野を実験的に立ち上げました。教育学部だけでなく工学部や文学部、医学部など、総合大学に隣接していることのメリットを生かして、現在では、大学教員と連携し、様々な共同研究に取り組むようになっています。

貴校の卒業生の活躍状況について：

追跡調査を行っていませんので、詳細についてはわかりませんが、毎年6～7割の児童が附属中学校に内部進学し、その後県内の高校、国内外の大学に進学し、国家公務員や大手企業、医師や弁護士として活躍している例を多く耳にします。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

公立学校へ戻ると、研究主任や教務主任等のリーダー的存在として活躍し、管理職になっている方がほとんどです。また、県や市町の指導主事等として指導行政の立場で活躍されている方も、近年増えてきており、県内では今後も若手教員が増え、ベテラン層が薄くなることが見込まれるため、この傾向は、さらに続くものと思われます。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

(1) P T A活動の充実

P T Aは、本校の副校長も副会長の一人として加わり、以下の6つの常任委員会で組織され、校内外にわたって様々な活動が意欲的に行われています。

- ・総務委員会（執行部役員と委員会の連絡窓口、公開研究会の手伝い、総会準備 等）
- ・学級代表委員会（学校行事の手伝い、各クラスの世話役、おやじの会の企画・運営 等）
- ・文化厚生委員会（文化教育セミナーの開催、同好会、スポーツの集いの企画・運営 等）
- ・施設委員会（ベルマークの収集、備品の購入、運動会P T A種目の企画・運営 等）
- ・児童安全委員会（登下校調査、学年パトロールの実施、附属ルールブックの発行 等）
- ・広報委員会（P T A会報の発行、ホームページの編集・管理の実施 等）

校内活動としては、文化教育セミナーの開催や、公開研究会への協力等を行い、校外活動としては、全国附属学校園等で開催される様々な総会や研修会に参加するだけでなく、千葉大学の4つの附属学校園（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）の交流を深めるためのソフトボール大会等も開催しています。

また、文化厚生委員会が所管する同好会は、保護者のニーズを基にして、以下の8つの同好会が設置されています。ほとんどの同好会で講師を招いて、年間6回程度の活動を行っています。

- ・手芸 ・料理 ・焼き物 ・ロールプレイング ・合唱 ・読書
- ・実践ボランティア講座 ・附小ソフトボール倶楽部（毎週土曜日）

この同好会に参加している保護者は、自分の学級以外の保護者との交友の幅を広げ、子育てについて先輩の保護者の話を聞いたり、親としての悩みなどを吐露したりする格好の場にもなっており、単に趣味を楽しむだけでなく、家庭教育に資する場として大切な役割を果たしています。

(2) 充実した人的環境を生かした研究や交流

①大半が30～40代の中堅教員

独立行政法人化してからは、千葉県教育委員会及び千葉市教育委員会との人事交流が進み、県内各地で活躍している教員のうち、公立小学校での経験年数が10～15年程度の教員が多く転入するようになり、平成28年の現在では、30代の教員が6割を占めており、非常勤講師を除く本校の教員の平均年齢は、約37歳です。これは、千葉県の公立小学校の教員の年齢構成では、最も少ない年代層であり、本校は働き盛りの年代層で構成されていると言えます。

②教科担任制に近い学級担任制

本校は、各学年3学級及び帰国児童を受け入れる学級（4年・5年・6年）の21学級で構成し、原則として学級担任制で学校を運営しています。学級担任の他に、低・中・高学年にそれぞれ指導教員を1名ずつ、図工・音楽・家庭科・理科には専科教員をそれぞれ1～2名ずつ配置していますので、半ば教科担任制に近い体制で、専門性の高い授業を行うことができます。

③児童や保護者、教師の安全・安心を支えるセーフティネット

生徒指導・教育相談の充実を図るために、スクールカウンセラーを中心に、相談員・特別支援員を配置し、管理職を交えて週に1回、情報の共有の場を持つようにしています。さらに、児童の安全を確保するために、警備員を2名雇い、終日巡回していただいています。

④立地を生かした大学との連携研究及び附属学校園間の交流活動

千葉大学の敷地内には、附属学校園（幼稚園・小学校・中学校）が設置されていることから、

教育学部の教員や学生、幼稚園・中学校の教員や園児・生徒との交流がしやすい環境になっています。この環境を生かして、教育学部の教授との連携研究を行ったり、教育実習を控えた学生や、教育実習を終えた学生のうち、ボランティアで学級の児童の世話をしたり、行事等の手伝いに来たりすることが比較的たやすく実現できています。

⑤同窓会・後援会の支え

本校は、今年度統合50周年を迎え、7500人を超える同窓生を抱える同窓会や、後援会の方々からの出資で、本校の教育活動や研究に資する備品等を購入することができています。特に、今年度は、統合50周年ということで、同窓会の方々と当時の恩師との思い入れの深い運動場の改修に出資していただくなど、本校に対する愛着と信頼を実感しているところです。

(3) 豊かな教育活動に資する物的環境

①校内はすべて無線LAN・校外からもアクセスできるネット環境

40台のデスクトップパソコンの他に、新たに児童用のタブレット端末 iPad を40台購入し、調べ活動等に活用しています。校内はすべて無線LANになっているため、児童が校内のどこに移動してもインターネット上にアクセスすることが可能になっています。

教員には、一人一台ノートパソコンが貸与され、ほとんどの校務処理がパソコン上で作業できるようになっています。また、万全なセキュリティ対策を講じているため、USB等でデータを持ち出すことなく、校外にいても職場とほぼ同様の環境で分掌等の仕事を進めることができるようになっています。特に、小さな子どもがいる教員や、学校から片道70～80kmも離れた自宅から通勤する教員にとっては、自分の時間を有効に使うことができる環境になっています。

②メディアセンターとしての2階建ての学校図書館

本校の学校図書館は、校舎全体の中央に2階建てで配置し、約2万冊の蔵書数があり、読書センター・学習情報センターとしての機能を果たしています。1階は、低・中学年用の絵本を集めて、学校図書館司書による読み聞かせなどができるようなつくりになっており、2階は、中・高学年用の本を集めるだけでなく、パソコンルームと共有したスペースで、調べ活動などが豊かにできるようなつくりになっています。

③外での活動も容易にできる特別教室

校舎の1階には、理科室・家庭科室・音楽室・図工室・多目的スペースを配置しています。どれも通常の教室の1.5倍の広さがある上に、外にひさしのある幅3mほどの広いたたきと中庭があるため、ビオトープの動植物の観察や、砂場での造形遊びなどが容易にできます。

④随時帰国児童を受け入れ、適応指導を行う学級

昭和55(1980)年度から、帰国児童を受け入れる学級を開級して以来、36年が経過しています。現在は、4年生1人、5年生2人、6年生9人が在籍していますが、随時受け入れをしています。漢字の読み書きに苦手意識を持つ児童や、初めての掃除や集団活動に戸惑う児童が多く、その児童の特性に応じた適応指導を行っています。運動会練習等の時期には、一般児童の学級に混入し、他の児童との交流を通して多くを学んでいます。

⑤児童の安全を守る32台の防犯カメラ

平成13(2001)年の大阪教育大学附属池田小学校の事件以来、児童の安全・安心を確保するために、本校でも職員の名札の着用や警備員の常時配置をしています。また、カラーで動画記録ができ、望遠機能を持つ32台の防犯カメラを設置しているため、プールへの不審物の投げ入れや不審者情報が入ると、画像に不審者が映っていないかどうかを確認することができ、場合によっては警察への情報提供にも活用することができています。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

①千葉県内において有用な研究主任・指導主事の養成所

現在、千葉県では、ここ数年で急増した若手教員の育成が喫緊の課題の一つとなっていますが、本校で多くの教育実習生を育てた経験や、他の公立学校の助言者としての経験が生かされ、本校の教員の多くは、研究主任や指導主事の立場を与えられて、県内各地の地元の学校や市町村教育委員会及び県教育委員会へと異動しています。その際、本校で培った研究の内容はもちろん、研究の進め方やおもしろさについて、各地の公立学校や地域の実情に応じて伝えており、研究等の有力な推進者として活躍しています。

②教育学部における理論的な学びを実地の学びへとつなぐ場

本校では、教育学部生の3年次に行われる教育実習の前に、1年次では授業研究入門として、本校教員による授業を参観し、2年次では観察実習として、一日行われる授業の他に学級経営等を参観します。他にも、希望する学生には、本校の児童と一緒に学習したり、遊んだりすることができるよう、学生ボランティアとして受け入れています。

③大学教員や長期研修生の理論を裏付ける場

千葉県では、公立学校の現職教員に対して、1年間学校現場を離れて教科等の研修の場を与えて、県・地区のリーダーとして千葉県教育の推進者としての人材を育成するための長期研修制度を実施しています。この長期研修生の多くは、千葉大学教育学部の大学教員からの指導を仰ぎながら研究を進めていきますが、その際、必要に応じて本校の教育活動や児童の実態を研究に資するデータとして提供することもあります。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

【近年の成果】千葉県の教育をリードする教員・指導主事の輩出

千葉県では、県内公立小学校・特別支援学校小学部において、国語・算数・理科・社会・音楽・図画工作・ICT活用・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・生活・特別支援等の指導で、

○ 卓越した技能と専門性をもっている領域があり、効果的な指導を実践している人

○ 指導方法の工夫や改善を図り、優れた指導力を発揮している人

を、「魅力ある授業づくりの達人」として認定し、県内各地で自身の授業や資料を公開させたり、授業づくりについて助言させたりすることで、県内の教員の指導力向上を目指しています。

この「魅力ある授業づくりの達人」は、県教委の指導主事等による審査を経て認定されますが、その多くが本校での教育実習・長期研修を経験した者や本校教諭として活躍した者です。

また、近年では、本校からそのまま指導行政へと異動する者も増えてきており、千葉県の教育の発展にとって、今後ますます本校は欠かせない存在となると思われます。

【今後の展望】プロパー教員の有効な活用を通して研究・教育活動の質の向上

上述した成果が得られている一方で、近年、本校の研究・教育活動の継続性や質の維持・向上に少なからず懸念があることは否めません。かつて約10数年前までは、本校には最長で26年、他にも10年以上勤務している教員が何人もいて、本校の研究の文脈や附属小教員としての矜持を様々な形で伝承する場がありました。しかし、附属小学校で培った力を地元の教育の活性化に貢献することを目的として、最大7年で人事異動を行うようになってからは、ようやく研究の仕方や面白さが分かってきた頃の有用な人材が次々に放出されることが続き、近年では、附属小学校の使命や仕組みに慣れるだけで精一杯という教員が大勢を占めるようになってきました。

このため、上述の課題を打開すべく、県教委との人事交流は維持しつつ、附属学校独自に専任教員を雇用する枠を設け、今年度から採用を始めたところです。